

# 嵯峨号

I型 島津式波尾切断付

II型 波尾切断なし

III型 三極X線管式

定 格

コンデンサ容量 I型 1.0 $\mu$ F

II型 0.75 $\mu$ F

最大使用電圧 80kV

X線管電流 最大 500mA<sub>p</sub>

(但し 10kW X線管  
使用の場合)

透 視 75kV 3mA

(定電圧) 連続

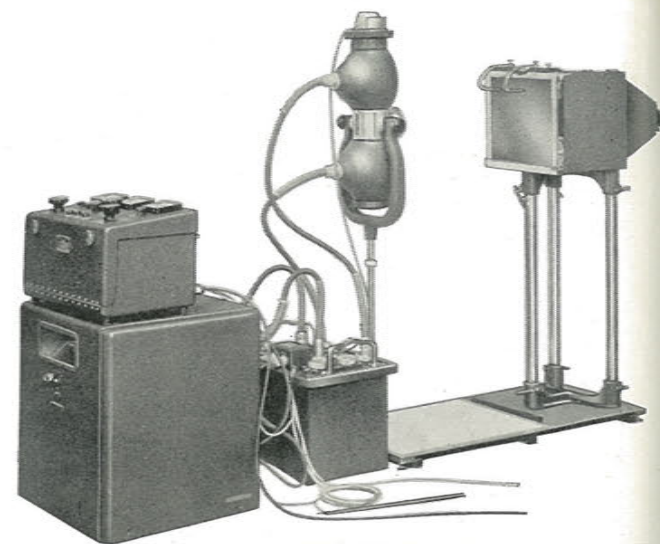
電 源 100V 1.0kVA 以上

## 特 長

1. 小容量の電源 (1kW) で瞬間大電流撮影が可能のため特別な電源設備のない場所でも充分な性能を発揮します。
2. 装置の構成の各単位は極力小型に設計されておりますので運搬が容易であり、各所に移動して検診を行うことができます。
3. 操作は非常に簡単であり、かつコンデンサの充電電圧は高圧側にそう入された特殊抵抗体を通して制御盤上の計器に常時指示されておりますので、電源事情に左右されることなく、常に一定した条件で撮影することができます。
4. グライナッヘル回路による平滑波形のX線によって透視を行うことができますので、比較的少ない電流で充分明るい透視像が得られます。
5. フィラメント点火方式が採用されておりますので機構が簡単であり、長年月にわたり安定確実な動作を行います。



B型間接撮影台 (連動式)



嵯峨号 I-A 型

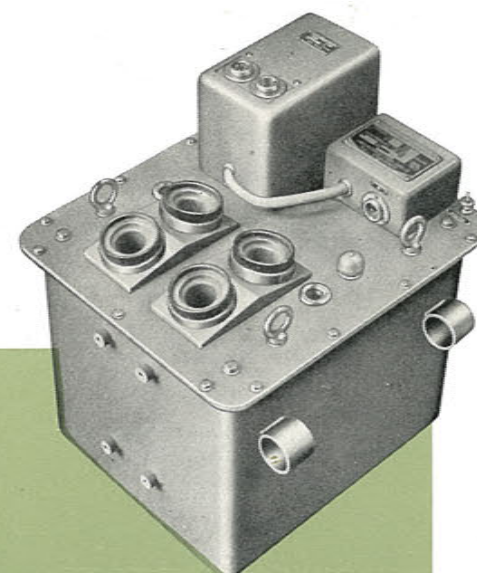


A型間接撮影台  
(固定式)

6. 回転陽極型X線管“サークレックス”を容易に組み合わせることができます。また高圧発生器内に二重焦点切換用フィラメント変圧器も簡単に内蔵することができます。
7. 各部分は運搬時の振動にも充分耐えるよう留意されておりますが、特にkV計は運搬に際し容易に取りはずせるようにさしこみ型になっております。
8. 管電圧と管電流は常に最も適当な関係を保つように連動されておりますので、X線管に過負荷が加わることがなく安心して使用できます。(特許第191020号)
9. 自動フィルム巻取装置を組み合わせることができますので、二重露出や空送りの失敗を防止できると共に、従事者を節減し、作業能率を高めることができます。
10. 高圧発生装置 (コンデンサ部) ケースには放電器が取り付けられ、高圧部露出の際には確実に接地すると共に、この状態で電源を入れた場合には警報用のブザーが鳴る等、高圧に対し厳重な危害予防装置が設けられています。



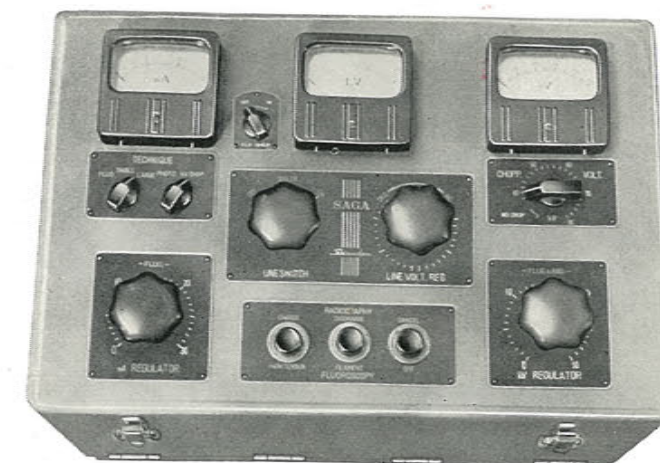
波尾切断部およびコンデンサ部



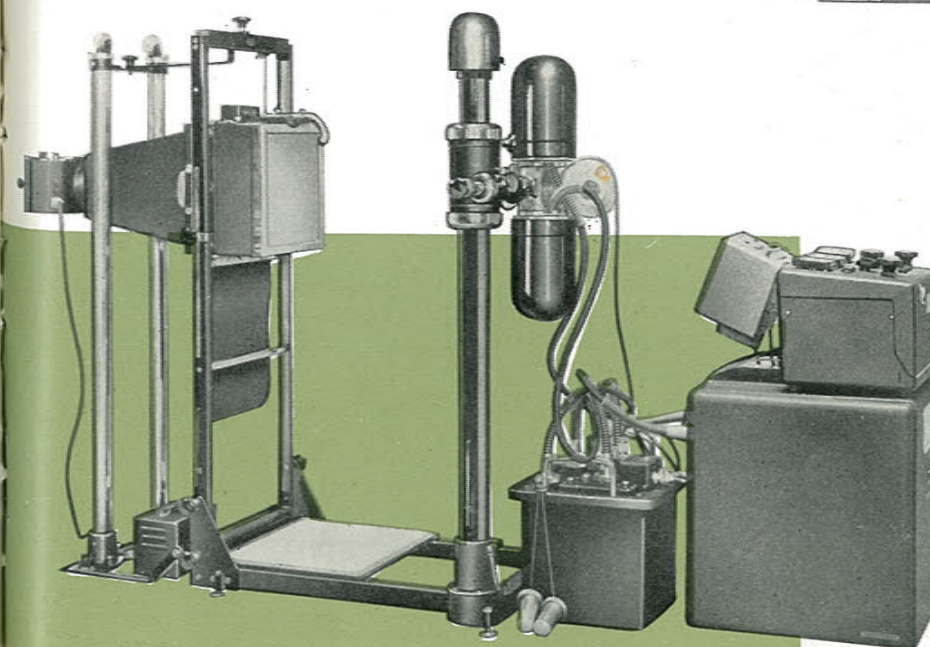
高圧発生器

※サークレックス、電源ボックス付の場合

11. I型装置波尾切断部の特長 (特許第237190・237193号)  
波尾切断用放電回路には特にすぐれた当社独特の三点間隙方式が採用されており、つぎの様な特長を示します。  
(イ) 動作し得る電圧の範囲が広く、動作安定でかつ低圧側で操作し得るため、機構が簡単。  
(ロ) 制御器上の調整器により任意の電圧までX線を放射し、残余を切断し得るので、従来のコンデンサ装置と異なつて任意の電圧の写真を得ることができます。  
(ハ) X線管電圧の波形を直流に近くすることができるので、写真効果がすぐれています。  
(ニ) 従来のコンデンサ装置では困難なホトタイマの使用が可能となりますので、操作が非常に簡易になり、しかも被写体の肥瘦にかかわらず常に濃度一定の写真が得られます。  
(ホ) 写真感光に不必要な部分をX線管を通さずに放電するためX線管の負荷を減じ、能率よくX線管を使用し、かつ寿命を大にすることができます。  
(ヘ) 不用なX線を発生しないので従来のコンデンサ装置に比べ散乱線が少なく、これによるX線障害を防止することができます。



制御器盤面 (I型)



嵯峨号 I-B 型

長尺用自動カメラ  
ホトタイマ付